

人と大地が育み伝える美しい村なかさつない

豊かな自然を未来につなぐ
中札内村景観計画（案）

令和9年（2027年）3月

中札内村

～ふるさと中札内村の景観を守っていくために～

中札内村は、雄大な日高山脈と清流札内川を背景として、大地に並ぶ防風林、豊かな畑作に酪農風景、そして緑と花に彩られるまちの風景等、素晴らしい景観を持っています。

これらは、恵まれた自然環境に加えて長い年月にわたる農業を中心とした生活の営み、そしてこの景観を愛し守ろうとする村民の取組によって形成されてきたものであり、我々にとって大変価値のある財産と考えております。



本村ではこれまで、花づくりの活動や農村景観ガイドプランの策定、「日本で最も美しい村」連合への加盟等、約 50 年にわたって景観まちづくりに取り組んできました。開村 80 周年の節目となる令和 9 年度からは景観行政団体に移行し、本計画に基づいて村独自の各種施策を進めてまいります。

本計画の理念を実現していくためには、行政だけでなく村内の事業者や村民ひとりひとりの協力が必要不可欠であり、村民一丸となって取り組んでいかなくてはなりません。ふるさと中札内村の美しい景観を守り育て、かけがえのないものとして未来へつないでいくためにも、村民の皆様、そして関係団体の皆様には、ご理解・ご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

中札内村長 川尻 年和

目次

計画の構成	4
第1部 計画の背景と目的	5
第1章 景観まちづくりの意義	6
1. 景観とは	6
2. 景観まちづくりとは	6
3. 景観まちづくりの意義	6
第2章 景観計画の目的と役割	9
1. 計画の目的	9
2. 計画の役割	9
(1) 総合的な景観形成の推進基盤	9
(2) 村民・事業者・行政の連携を促す共通の指針	9
(3) 景観からのまちづくりの推進	9
第3章 景観計画の位置づけ	10
1. 景観計画の位置づけ	10
2. 景観計画の計画期間	10
第2部 中札内村の景観	12
第1章 中札内村の景観の成り立ち	13
1. 中札内村の概要	13
(1) 位置	13
(2) 気候・気象	14
(3) 地形・地質	15
(4) 水系	16
(5) 植生	17
(6) 土地利用	18
(7) 生活文化	24
2. 中札内村の開拓の歴史と景観形成の歩み	31
第2章 中札内村の景観特性と課題	32
1. 中札内村の景観特性	32
(1) 自然景観	32
(2) 農地景観	33
(3) 市街地景観	34
2. 景観をとりまく環境の変化	35
(1) 社会情勢の変化	35
(2) 新しい社会課題への対応	35
3. 中札内村における景観の課題	36
(1) 景観まちづくりの担い手の高齢化や減少	36
(2) 農地景観の変化	36
(3) 景観眺望場所での景観阻害要素の是正	36
(4) 限定的な範囲に止まる街並み景観形成の取組	36
(5) 屋外広告物の運用管理の適正化	36
第3部 景観形成の基本的な考え方	37
第1章 景観形成の基本理念	38

第2章	景観形成の目標.....	39
第3章	景観形成の基本方針.....	40
1.	自然景観.....	41
2.	農地景観.....	42
3.	市街地景観.....	43
第4部	良好な景観形成のための 行為の制限に関する事項	44
第1章	景観計画区域.....	45
1.	景観計画区域.....	45
2.	区域の区分（エリア）	45
第2章	届出の対象となる行為.....	46
1.	自然景観エリア・農地景観エリア.....	47
2.	市街地景観エリア.....	49
第3章	景観形成基準.....	50
(1)	自然景観エリア・農地景観エリア.....	50
(2)	市街地景観エリア.....	52
3.	景観形成配慮事項.....	53
(1)	基本的事項.....	53
(2)	個別事項.....	53
第4章	事前協議と届出の流れ.....	56
第5部	景観形成を支える資源の 指定方針の整備に関する事項	57
第1章	景観重要公共施設の指定及び整備に関する事項.....	58
1.	指定の方針.....	58
2.	指定に関する事項.....	58
3.	整備に関する事項.....	59
第2章	景観重要建造物及び景観重要樹木に関する事項.....	60
第3章	屋外広告物の景観形成に関する基本的事項.....	61
第4章	自然公園法の許可の基準.....	62
第5章	景観農業振興地域整備計画の策定に関する 基本的な事項	63
第6部	景観まちづくりの 推進に向けて	64
第1章	景観形成の推進体制.....	65
第2章	計画推進のための施策.....	66
1.	景観まちづくり文化の定着	66
2.	景観計画に基づいた取組	66

計画の構成

第1部 計画の背景と目的

景観まちづくりの意義を示すとともに、計画の目的、役割、位置づけを示します。

第2部 中札内村の景観

村の景観形成の成り立ち・歩みと、現在の景観特性を「自然景観」、「農地景観」、「市街地景観」ごとに整理し、景観を取り巻く現状と課題について示します。

第3部 景観形成の基本的な考え方

本村における景観形成の基本理念と目標を定めるとともに、基本理念と目標の実現に向けた基本方針を示します。

第1章 景観形成の基本理念

本村における景観形成を進める上で大切にすべき考え方を定めます。

「人と大地が育み伝える 美しい村 なかさつない」

第2章 景観形成の目標

本村が取り組む景観形成の目標を定めます。

目標1 日本一美しい農村をつくる **目標2** みんなで取り組む

第3章 景観形成の基本方針

基本理念、目標の実現に向けた基本方針を、区域ごとに示します。

第4部 良好な景観形成のための行為の制限に関する事項

景観計画区域（村内全域）を示すとともに、区域内の各エリアにおける届出の対象行為、景観形成の基準、配慮事項を示します。

第5部 景観形成を支える資源の指定方針や整備に関する事項

景観重要公共施設、景観重要建造物・樹木、屋外広告物、自然公園法の許可の基準、景観農業振興計画に関する事項を示します。

第6部 景観まちづくりの推進に向けて

景観形成の推進に向けて、村民・事業者・行政の協働等の基本的な考え方や、推進に向けた施策・事業、計画の進行管理の方法を示します。

第Ⅰ部 計画の背景と目的

景観まちづくりの意義を示すとともに、
計画の目的、役割、位置づけを示します。

第1章 景観まちづくりの意義

1. 景観とは

景観とは、山や川といった自然、農地、建物、道路等の目に見えるものだけでなく、街の雰囲気や文化的・歴史的ななかり等、私たちがそこから感じ取る印象までも含めた幅広いものです。

中札内村は、雄大な日高山脈と清流札内川を背景として、どこまでも広がる平坦な大地の中に、防風林と道路によって碁盤目状に区切られた農業国十勝を象徴する農地を保有する恵まれた環境にある村です。また、花やアートといった文化的ななかりも感じられます。

この景観は、長い年月にわたる自然の営みと、農業を中心とした生活の営み、そしてまちを彩る文化的な営みからつくり出されたもので、そうした景観が、私たちの生活にとって豊かで文化的な風土となっています。

2. 景観まちづくりとは

景観まちづくりとは、自然や街並み、そして、これらに対する印象を含めて、「美しく魅力のある景観を守り、育て、つくるための一連の取組」のことです。

美しく魅力のある景観は短期間にできるものではなく、そこで生活する人々の長期間にわたる努力の積み重ねによってつくりあげられるものであるため、一人ひとりが日頃から意識して持続的に取り組むことが必要です。

3. 景観まちづくりの意義

村では、昭和 50 年の花いっぱい運動をはじめとし、現在に至るまで約 50 年に渡って景観まちづくりに取り組んできました。平成 28 年には、素晴らしい地域資源や美しい景観を持つ村を将来にわたって受け継いでいくことを目的としている NPO 法人「日本で最も美しい村」連合に加盟し、美しい村としての価値を創造してきました。今後は、SDGs や脱炭素・循環型社会の実現に向けた取組とも連携しながら、持続可能な景観形成と環境保全に取り組んでいく必要があります。

景観まちづくりの意義

- 村の貴重な財産といえる恵まれた自然や美しい景観を、次代に引き継ぐことができます。
- 快適な住環境をつくり、生活や産業に根ざした個性や文化を創出するとともに、村民の地域に対する誇りと愛着を育むことにもつながります。
- 令和 6 年に日高山脈が国立公園に指定されたこともあり、美しく魅力のあるまちづくりを推進することは、訪れる多くの人々の共感を呼び、観光や交流が促進されます。
- 取組を通じて村民意識の向上が図られ、コミュニティの形成や村民活動の活性化等、村民主体の活力のあるまちづくりが推進されます。

村における景観に関する取組

年

取組内容

1970年代

昭和45年～

昭和50年 花いっぱい運動の始まり

国道の商店街や駅前通りにプランターが配置され、中札内村高等学校の定時制農業科の生徒や老人クラブ員がビニールハウスで育てた花苗が植えられました

昭和52年 北海道生活環境整備モデル事業による環境整備活動

「住み良い環境づくり」や「屋敷内外の整備」等を柱に、生活環境の改善から景観づくりが始まりました

昭和56年 住民による花づくり運動の始まり

花づくりサークル「すみれ会」が発足し、住民による自発的な景観づくり活動が始まりました

昭和58年 全国花いっぱいコンクール 内閣総理大臣賞受賞

村内の花による景観づくり活動が評価されはじめました



1980年代

昭和55年～

昭和60年 有機農業の村宣言

家畜糞尿や農作物残渣を畑に還元することで循環農業が進められました

平成4年 イメージアップ推進委員会 発足

「街並みや景観は財産である」との考えのもと、住民主体で村の景観の再評価が進められました。同時期にアグリパーク（現道の駅）、坂本直行記念館、花畑牧場が開業し、中札内農村休暇村（当時）の分譲が開始される等、景観の創出と活用が始まりました

平成5年 農村景観ガイドプラン 策定

住民主体で作成したガイドが全戸配布され、景観形成に向けた取組の口火となりました



1990年代

平成2年～

平成8年 北の大地ビエンナーレ 初開催

村から世界に発信される芸術文化の取組が始まりました



年

取組内容

2000年代

平成12年～

- 平成13年 **豊かな自然を未来につなぐふるさと景観条例 制定**
十勝最初の景観条例であり、景観形成における村、住民、企業それぞれの責務が示されました
- 平成15年 **景観形成指針 策定**
景観形成の基本方針と村民の役割が示されました
- 平成19年 **まちづくり基本条例 制定**
住みよい豊かな地域社会を形成するための様々な空間や暮らしの創造は、村民主体、村民協働で推進することが明示されました
- 平成19年 **中札内スタイル住宅建築基準 開始**
村独自の建築基準を満たす住宅新築への支援による景観誘導が始まりました
- 平成21年 **集合看板 設置**
広告の乱立防止に向け、個別設置の看板を集合設置にする取組を実施しました

2010年代

平成22年～

- 平成25年 **景観まちづくり委員会 発足**
村の貴重な財産である美しい景観を守り、つくりあげていくため、景観まちづくり委員会を設置しました
- 平成26年 **景観づくり・なかさつないルール 作成**
住民みんなで景観づくりのルールを守っていくことを提案するため、景観づくりの考え方やルール案等を記載した冊子を作成し、全戸配布を実施しました
- 平成28年 **「日本で最も美しい村」連合 加盟**
農業の営みを発展させながら、農村風景の整備・保全に取り組んでいることや、「アートの村」としての魅力発信、住民組織による花の景観づくり等が評価されました



2020年代

令和2年～

- 令和2年 **景観まちづくりロードマップの策定**
景観行政団体へ移行するまでのロードマップを、景観まちづくり委員会で策定しました
- 令和5年 **景観計画の策定準備**
景観計画策定に向け、景観調査等を実施しました

コラム | 景観づくりに携わってきた人のお話



中札内村景観まちづくり委員会会長 金澤 和彦

「『景観』とは何でしょうか？」以前聞かれて、ふと出たのが「『景観』とは『こころ』」という言葉でした。目にする景観に感じる印象や感情は、その人のこころの反映だと思います。毎日見る村の景観から、私は「人の勤勉さや優しさ」「自然の豊かさや恵み」の美しさを感じています。みなさんの景観に対する想い、そして行動により、この村が「こころの美しい人」が暮らす「美しい村」であり続けて欲しいと願っています。

第2章 景観計画の目的と役割

1. 計画の目的

本計画は、村の景観特性、基本理念、基本方針等を示すものであり、社会環境の変化に対応しながら中札内村らしい景観を保全・継承・創出していくために「景観法（平成16年法律第110号）」に基づく計画として策定したものです。

平成15年、国土交通省は観光立国を実現する戦略の一つとして「美しい国づくり政策大綱」を公表し、これまでの政策方針の転換となる「美しい国づくりに向けて大きく舵を切る」ことを宣言しています。その翌年の平成16年には、景観に関する総合的な法律として「景観法」が制定されました。景観法に基づく計画を策定することで、国や北海道との連携を図りつつ、より積極的な景観まちづくりに取り組んでいきます。

村民アンケート調査では、8割以上の村民が、村の景観を守る必要性について「必要がある」又は「ある程度必要がある」と回答しています。

私たちの財産である村の美しい景観を、後世に引き継いでいくために、50年以上続く景観まちづくりの取組を、さらに一歩前に進めていきます。

出典：令和5年度村民アンケート

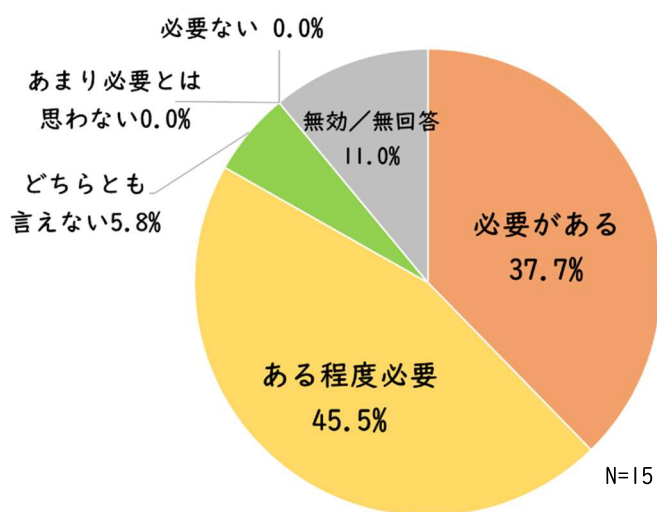


図1-1 景観を守る必要性について（単数回答）

2. 計画の役割

(1) 総合的な景観形成の推進基盤

これまでの景観まちづくりの取組を充実、強化するとともに、社会情勢の変化、景観法の活用等に対応した、新しい総合的な景観まちづくりを推進する基盤とします。

(2) 村民・事業者・行政の連携を促す共通の指針

景観まちづくりは、庁内関係課はもとより、国や北海道、村民や事業者が目標を共有化し、連携して取り組んでいく必要があります。

このため、本計画は村民・事業者・行政が一体となって景観まちづくりを推進するための共通の指針とします。

(3) 景観からのまちづくりの推進

本計画は、「中札内村まちづくり計画」等で示されている村の「将来のまちの姿」等について、景観の視点から実現させるものであり、上位・関連計画と整合・調整を図りながら、一体となって総合的にまちづくりを推進します。

第3章 景観計画の位置づけ

1. 景観計画の位置づけ

本計画は、主に村の上位計画である「中札内村まちづくり計画」に基づくものであり、村が策定する「豊かな自然を未来につなぐふさと景観条例」や北海道が策定する「北海道景観計画」等の既往関連計画との整合を図るものです。

また、本計画は、景観法第8条の施行に基づく景観計画として策定するものです。

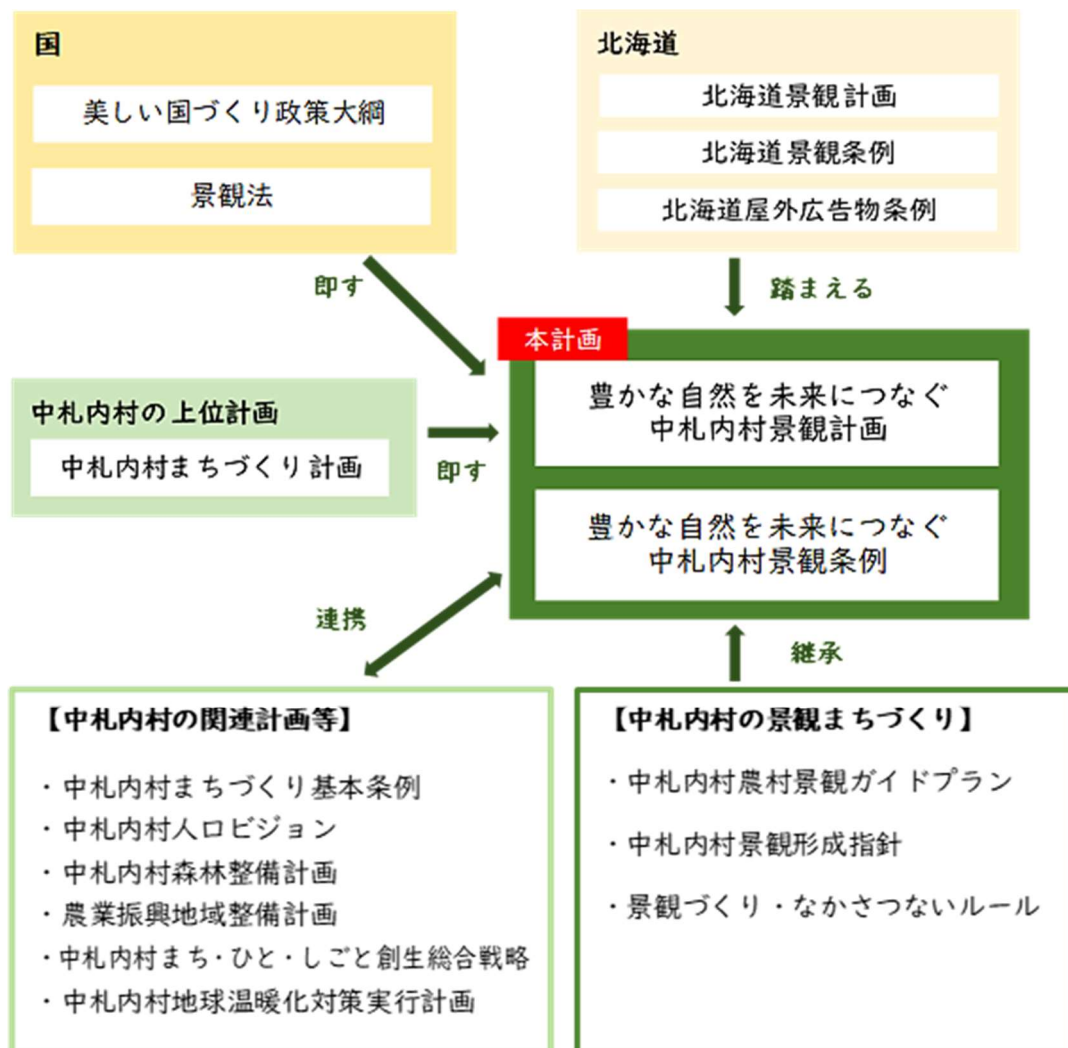


図 1-2 中札内村景観計画と上位関連計画の関係性

2. 景観計画の計画期間

本計画は、景観づくりに関する長期的な展望を持った計画であるため、計画期間は設定しませんが、社会動向の変化等により目指すべき目標に変更が生じた場合は必要に応じて見直しを行うものとします。

上位関連計画等による村の景観形成に関する事項

計画名	村の景観形成に関連する事項
北海道景観計画 (平成20年)	・ 全道各地における景観の特色に配慮しながら、広域的なまとまりの中で、連続性を保ちながら一体となって、本道の雄大な大地と澄んだ青空にふさわしい美しい景観を形成することができるような景観づくりを進める。
北海道景観条例 (平成19年)	・ 良好な景観の形成に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、もって豊かさや潤いのある暮らし及び魅力ある地域社会の実現に寄与することを目的とする。
中札内村まちづくり計画	・ まちづくり基本条例の実践に向けた計画で、村民との共同によるまちづくりのための行動計画となるもの。
中札内村まちづくり基本条例 (平成19年)	・ まちづくりの主役が村民であることを確認し、村民（事業者を含む）、議会、行政が協働のまちづくりを実施することを目指す。
中札内村森林整備計画	・ 農耕地の防風保安林について、景観としての機能も果たしていることから、景観保全を考慮しつつ健全な森林づくりを目指すとしている。
農業新興地域整備計画	・ 村の農用地区域を指定し、区域内での開発行為を制限している。
中札内村まち・ひと・しごと 創生総合戦略	・ 5つの基本目標を掲げ、人口減少と少子高齢化の進む中で自らが行動し、共に支え合う魅力ある「美しい村」づくりを進めていくとしている。
中札内村地球温暖化対策 実行計画	・ 村が目指している「美しい村」づくりと一体となって、温室効果ガス排出量削減等の地球温暖化対策に取り組んでいくこととしている。
農村景観ガイドプラン (平成5年)	・ 村の景観の価値について述べ、景観の基本方針等を定めている。 ・ 目標…「日本一美しい村をつくる」「日本一の農業の村をつくる」
豊かな自然をみらいにつなぐ ふるさと景観条例 (平成14年)	・ 目的…村の景観形成に関し、住民、企業等の果たすべき役割を明らかにし、美しい景観の形成を目指す。 ・ 内容例…住民及び企業等は、景観形成に意識を高め、自ら景観形成に寄与するよう努めるとともに、行政の実施する施策に協力するものとする。
中札内村景観形成指針 (平成15年)	・ 豊かな自然をみらいにつなぐふるさと景観条例を周知し、実行していくための指針を定めたもの。分野ごとの取組方法をまとめている。
景観づくり・なかさつない ルール (平成26年)	・ 景観が村民の意識から遠くなっていることを受けて、景観を守るための取組の効果をあげるために作成。 ・ 「どういう景観にするか」「そのために誰が何をするか」「ルールによって生まれる効果」等について記載。
中札内村住生活基本計画	・ 村の住環境を取り巻く現況の課題や今後の住宅施策推進のため、目標や具体的な展開方策を示したもの。 ・ 景観に配慮した緑豊かで美しい住宅・住環境の形成を目指している。

表 1-1 上位関連計画等による村の景観形成に関する事項

コラム 2 景観づくりに携わってきた人のお話



中札内景観アドバイザー 斉藤 浩二

「良い計画があっても主役は人。私達がしっかり考えて、美しくふるまうことが大事だ。」

『農村景観ガイドプラン』ができた時のある委員の一言です。

平成始めに誕生した村のキャラクター「ピータン」の活用を検討するイメージアップ推進委員会は、議論の中で「ピータン看板をあちこちに建ててはどうか。」から、ピータンが表す豊かな農業やその基盤の環境や景観を創ることの方が重要、となり、当時としては先駆的な農村景観づくり案が作られました。

中札内村は今も素敵な人ばかり。新しい景観計画ができて、これから先が楽しみです。

第2部 中札内村の景観

村の景観形成における成り立ちと歩みを整理するとともに、
現在の景観特性、景観をとりまく現状と課題について示します。

第1章 中札内村の景観の成り立ち

I. 中札内村の概要

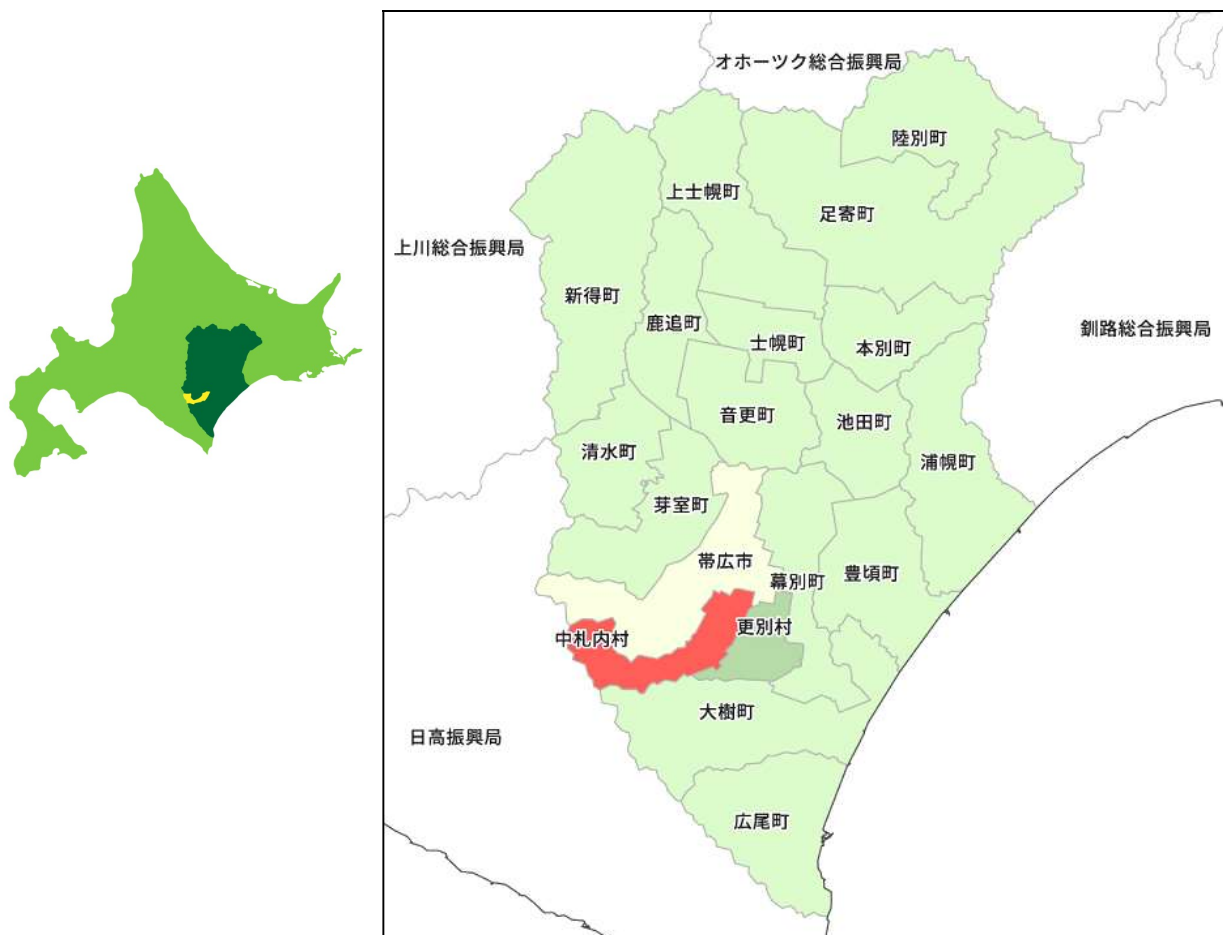
(I) 位置

中札内村は、札内川上流から中流に沿った、東西約 12 km、南北約 28 km、海拔 190.05m、面積 292.58km² の村です。

北海道東部の十勝地方南西部に位置し、北部は帯広市、東部は更別村、南部は大樹町に隣接しています。また、西部は日高山脈襟裳十勝国立公園の一部であり日高山脈を越えて新ひだか町に隣接しています。

十勝の中心都市帯広からおよそ 28 km（車で約 30 分）の地点にあり、とかち帯広空港にも近く村から車で約 11 km（車で約 12 分）、港湾は、村から 60 km（車で約 65 分）の距離にある広尾町に十勝港があります。

中札内村の位置



出典：Map-It マップイット 地図素材サイト

図 2-1 村域図

(2) 気候・気象

村は大陸性気候で寒暖の差が極めて大きく、盛夏期の最高気温は 30℃前後、厳冬期の最低気温は氷点下 20℃前後になります。年間を通して晴天日が多く、湿度も比較的 low 梅雨期の影響の少ないことや、長雨はないが集中的に降雨、降雪があり、積雪期間が長いのも特色の一つです。特に冬期は、日高山脈によって雲が遮られることで、雲一つないようなカラリとした晴天、いわゆる「十勝晴れ」が見られ、雪が積もった雄大な日高山脈を一望することができます。

また、晩秋から晩春にかけて北西又は西から、日高山脈の山脈沿いに吹き降ろす強風が吹くことがあり、「日高おろし」、「十勝春風」、「馬糞風」等と呼ばれています。村の土の多くは軽しような火山灰土であり、4 月下旬に雪が融け土壌の乾燥が始まると、吹きつける強風によって畑地の土が侵食されてしまいます。先人たちはこの強風から畑地・農作物を守るため、格子状の防風林を造成し、維持・管理してきました。

	降水量 (mm)	気温			平均風速 (m/s)	日照時間 (h)	平均降雪量 (cm)	最深積雪 (cm)
		平均(℃)	最高(℃)	最低(℃)				
令和元年	1002	6	36.7	-25.2	2.5	2163.7	329	58
令和 2 年	896	6.1	31.9	-25.9	2.3	1986	354	120
令和 3 年	1325	6.4	35.1	-23	2.4	1608.3	309	100
令和 4 年	1222	6.4	31.9	-22.8	2.4	1898.3	347	83
令和 5 年	1030	7.3	33.8	-24.7	2.4	1980.1	305	77
令和 6 年	766	7.0	32.4	-21.3	2.4	2027.6	302	78

表 2-1 年次別気象概要 観測地点：上札内



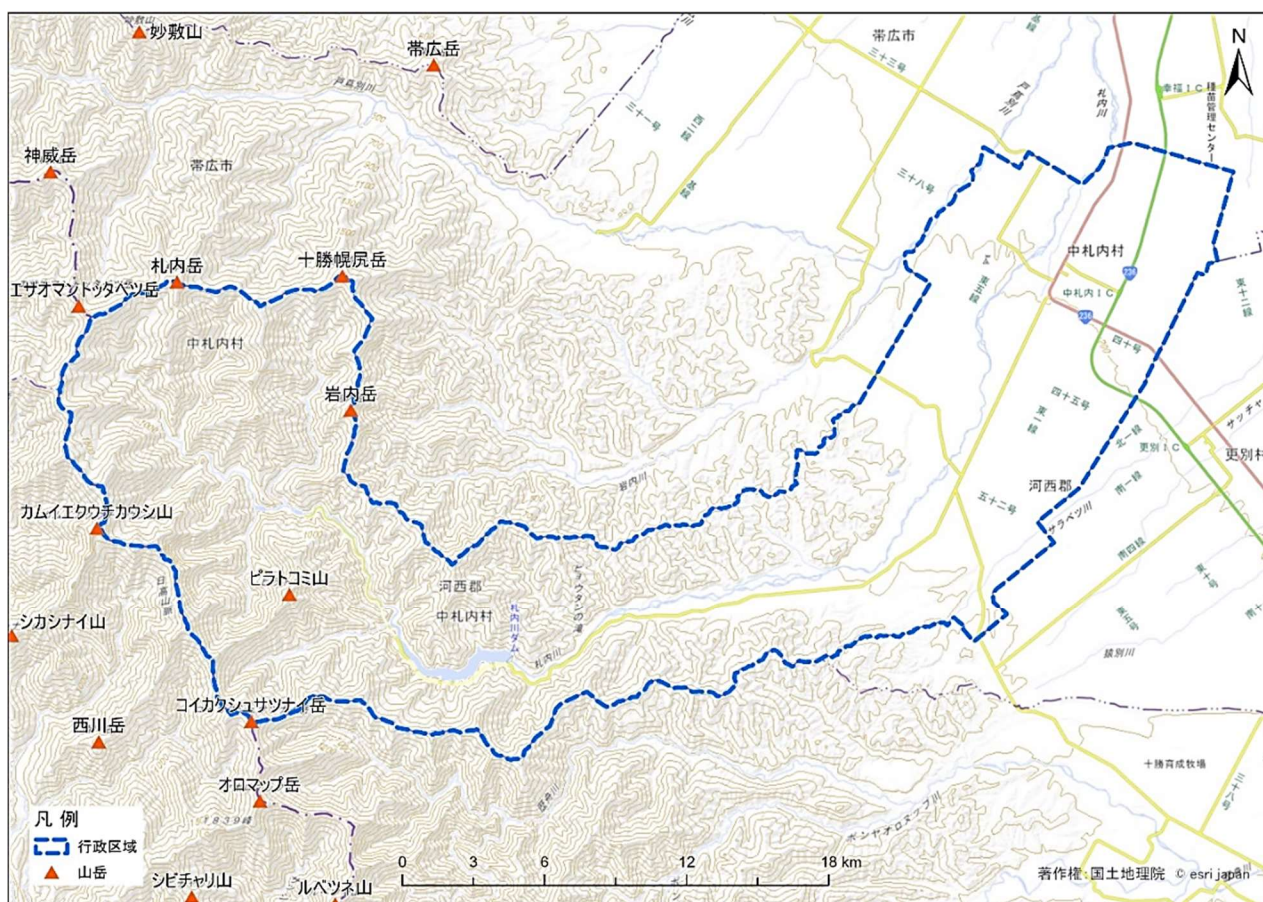
十勝晴れの日高山脈と防風林と畑地

(3) 地形・地質

村の西側は、日高山脈による山岳地帯が広がり、東部は概ね平坦な地域が広がっています。

北海道中央南部に位置する日高山脈は、新第三紀以降に大陸プレート同士の衝突によって生じた大起伏山地です。稜線部には北海道で唯一の典型的な氷食地形が分布しており、カール(圈谷)等のダイナミックな地形と高山植物や雪氷とが織りなす山岳景観は、当該地域における景観要素の核心です。さらに、村内の平野部ではどこからでも南北に延々と連なる印象的な日高の山並みが見られ、「原風景」として地域の人々に深く意識されているほか、日高山脈はアイヌの文化景観としての価値も高く評価されています。

村の地質は、札内川流域の河成沖積土壌以外は、すべて火山灰土に属し、旭岳、十勝岳、樽前山等による火山灰が降灰堆積したものとされています。風化は進んでおらず、地味は痩せ、粘着力の低い土壌になっています。札内川の川沿い一帯は、概ね肥沃で、農耕に適していることもあり、村の開拓も札内川沿いから始まっています。



出典：Esri Japan ・国土数値情報

図 2-2 主な山位置図

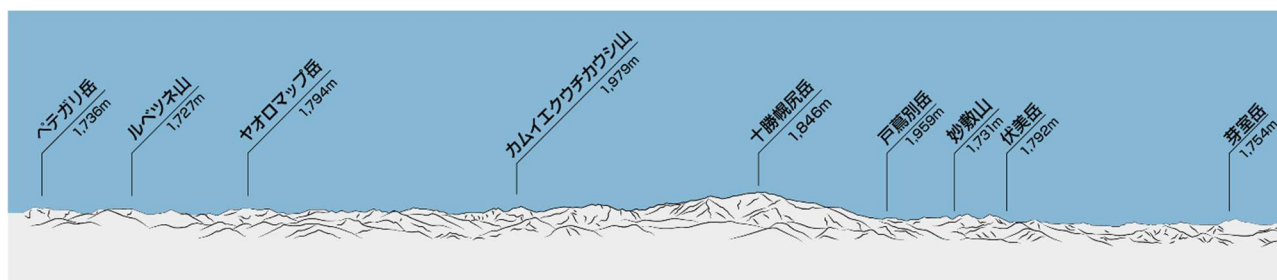


図 2-3 中札内村から眺める日高山脈

(4) 水系

日高山脈中央部を源とし、村の中央を南から北に流れる札内川は、村を貫流して、帯広市街部で十勝川と合流する延長 82km、流域面積 725km²の十勝川の一次支川です。河床勾配が 1/100～1/250 の急流河川であり、川幅は広く砂州の動きが活発であることから、礫河原等の自然裸地が多いといった特徴があります。また、冬と夏の渇水期には札内川のすべての水が砂礫の隙間から地下に浸透し、地上の流れが消えてしまうことがあるため、アイヌの人々は乾いた川「サッ・ナイ」という名前を付け、後に「札内」となりました。砂礫を通ることから、これまで何度も清流日本一に選ばれています。伏流水由来の恵津美川や三番川は、中札内市街地のすぐそばを流れ、うるおいのある景観をもたらしています。村の開拓は、札内川沿いから始まっており、現在は十勝管区の 1 市 4 町 2 村に水道用水として共有される等、人々の生活に欠かせない貴重な水資源にもなっています。上水だけでなく、村内の農地の約 8 割が防除や散水のためのかんがい用水としても利用し、村の農業・生活を支えています。また、札内川園地や、札内川ダム、西札内防災ダム、第一号砂防堰堤等の施設は観光・眺望スポットにもなっています。

村内には、札内川以外にも、同じ十勝川水系である戸蔭別川、サラベツ川が流れています。



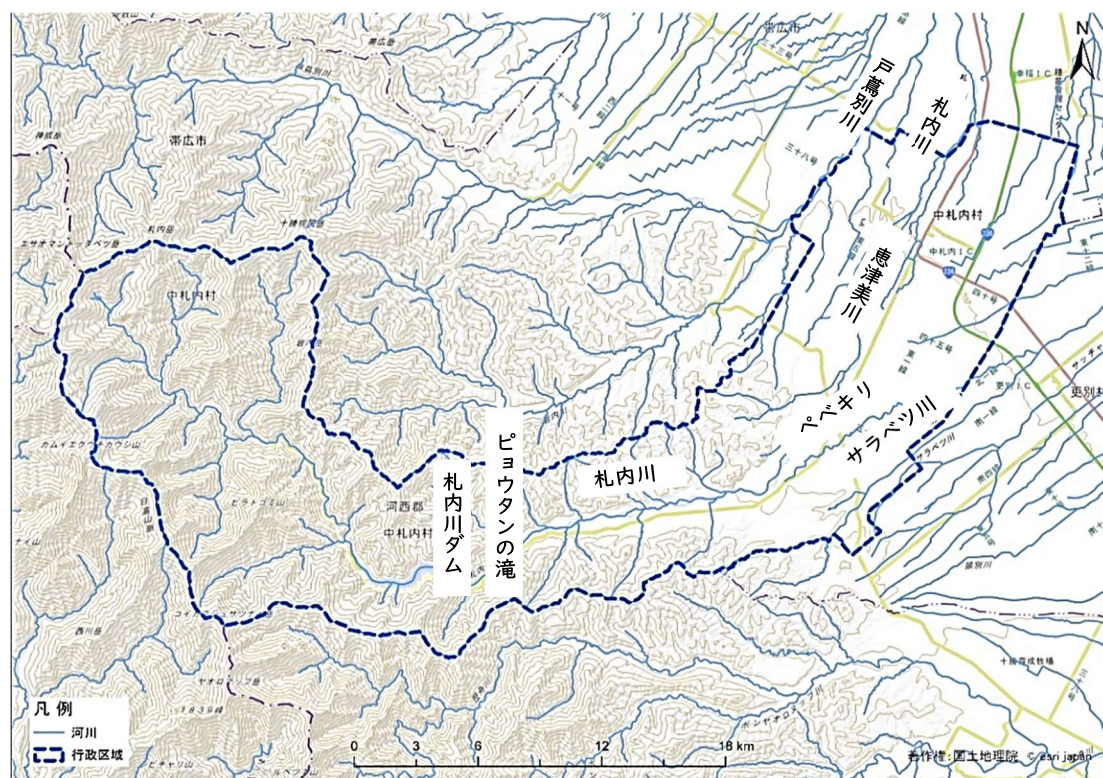
札内川



札内川ダム



恵津美川



出典：Esri Japan ・国土数値情報

図 2-4 水系図

(5) 植生

日高山脈の稜線部から山麓部にかけては自然度の高い森林や河川が存在しており、シマフクロウやクマタカ等の生態系上位種や、特異な地質や環境に対応した固有種及び希少種の生育地等となっています。

平野部には明治 38 年の開墾当初、村内にはカシワの原生林とスズランの密生地が広がっていました。カシワは大木が繁茂していて、当時は木炭にする等して生活の糧にもなっていました。今でもカシワ林は防風林として村内に数多く残され、人々の生活を支えています。また、スズランやカタクリ、オオバナノエンレイソウやニリンソウ等、貴重な在来種の草花の群生地も数多く残されています。

札内川の礫河原には、ケショウヤナギが群落を形成しています。ケショウヤナギは、氷河時代から生き延びてきた氷期の遺存種と呼ばれ、国内では貴重な植物であり、北海道の十勝・紋別地方と、長野県上高地のみでしか確認されていません。札内川の礫河原はゴロゴロとした石に覆われており、他の植物が育つには不向きですが、ケショウヤナギは他の植物が生育できない礫質の河原で生長することができます。札内川は河床の移動が激しく、洪水による河岸浸食により寿命に満たないうちに倒壊するケショウヤナギが見られますが、同時に新たな河原が形成され、ケショウヤナギの更新に適した環境が提供されます。しかし、河原の森林化等により礫河原とケショウヤナギの群落は平成 18 年以降に減少が確認されており、北海道開発局と地域が連動したケショウヤナギの保全活動が、現在も継続的に行われています。



スズラン



カシワ



ケショウヤナギ群生地

(6) 土地利用

村の土地利用は、総面積 292.58km² のうち 23.8%が畑であり、宅地は 1.3%となっています。

	畑	宅地	池沼	山林	牧場	原野	雑種地	その他	総面積
面積	69.51	3.94	1.91	187.17	0.73	3.55	2.70	23.07	292.58
	23.8%	1.3%	0.7%	64.0%	0.2%	1.2%	0.9%	7.9%	100.0%

出典：第 132 回（令和 7 年）北海道統計書

表 2-2 地目別面積（単位：km²）

① 市街地

【中札内市街地】

市街地は村を縦断する清流札内川の右岸に広がり、国道 236 号が南北の骨格軸となって、商業・業務施設や官公庁施設が集積しています。主に低層住宅地として市街化されており、官公庁施設を含めて高層の建造物はほぼありません。

鉄道記念公園や文化創造センター周辺、中央公園等においては緑地・緑化が見られます。国道 236 号は、美しい花壇や街路樹が整備されており、村内への観光のゲートウェイを担う「道の駅 なかさつない」が立地しています。



出典：Google My Maps を用いて加工（中札内村作成）

図 2-5 市街地の公園等整備状況



文化創造センター周辺



中央公園



道の駅 なかさつない



中学校付近の街路樹

【ヴィレッジ「ときわ野」】

ヴィレッジときわ野は、「道の駅なかさつない」南側の国道 236 号沿いに位置し、北側に小・中学校やスーパーマーケットが集積する立地の良さから、平成 20 年販売開始の第 1 次（26 区画）に始まり、現在までに第 5 次段階の分譲が実施されています。地区内において建設できる家屋については公売要領として建築条件が示されており、周囲の農地景観に配慮した住宅地が形成されています。

また、公園や緑化スペース等が広がり、自然豊かな美しい街並みが形成されています。



ヴィレッジときわ野



ときわ野公園

【上札内市街地】

中札内市街地から道道 55 号を南に進むと、道道 240 号と交わる地点から小規模の集落が広がっています。広域的行政機能はありませんが、上札内交流館や郵便局が立地しています。



上札内市街地



上札内市街地の店舗



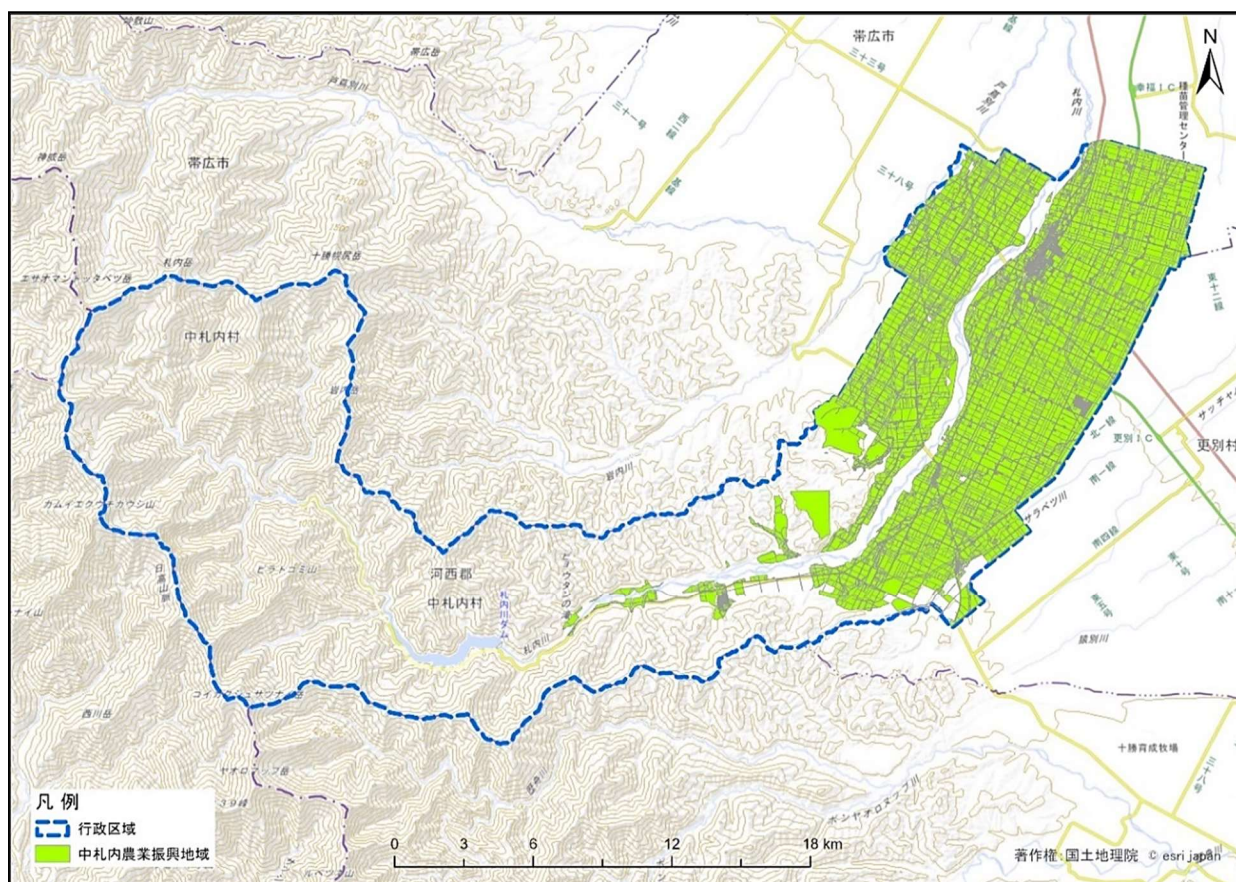
上札内交流館

② 農地

日高山脈の裾野に広がる平野部一帯は、農業振興地域として開発行為や農地等の転用が制限されており、防風林で囲まれた十勝らしい農村地帯になっています。豊富な水資源に恵まれた約7,000haの耕地では、主要作物の小麦、馬鈴薯、ビート、豆類に加え、枝豆やサヤインゲン等、野菜の作付けも増え、安定した輪作体系で耕畜連携による農業が営まれています。

畜産においては、酪農では牧草とデントコーン等の栄養価の高い飼料を生産し、個体乳量が高い水準にあり、経営規模拡大による搾乳ロボット等の導入が進んでいます。養豚・養鶏では、良質な畜産物の安定生産や高品質な食品づくりによりブランドを確立し、高い評価を得ています。

また、農地を守る格子状に形成されている防風保安林（村有林）と、農業者自らが管理する耕地防風林は、吹き付ける風を分散することによって、周囲の風の力を弱くし、作物の損傷、耕地の地温の低下、表土の飛散を防ぐ等の効果を持っています。



出典：Esri Japan ・中札内村

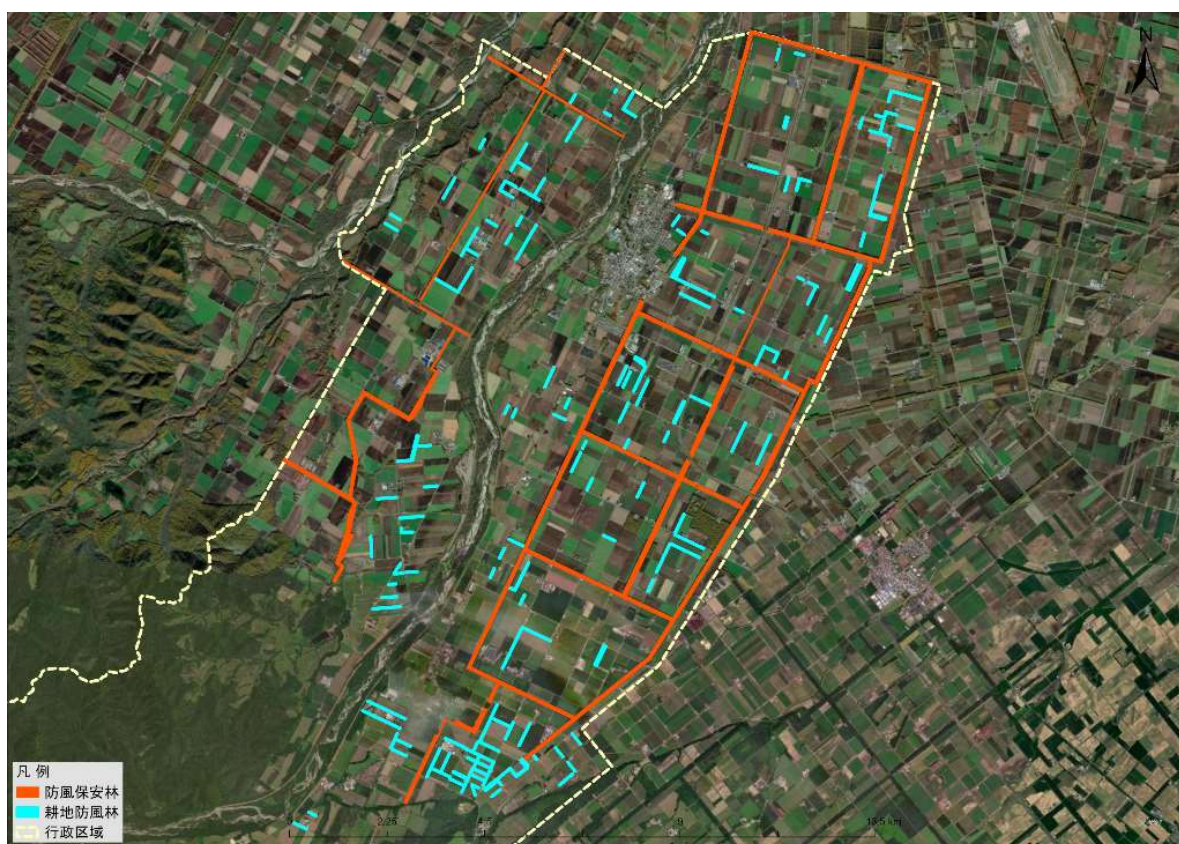
図 2-6 中札内村農業振興地域整備計画図

■中札内村の防風林

防風林の歴史は北海道の開拓の時代から始まります。農作物を風害から守るため、各市町村において計画的な防風林の植栽が推奨されたことにより、全道各地で整備されていきました。

防風林は農作物の生産性向上に役立つだけでなく、土壌の水分保持や土砂の流出防止といった効果や、小動物の貴重な住処として生態系に果たす役割も持っています。

また、広大な大地に整然と並ぶ姿が村の農地景観の魅力をより引き立たせ、美しい景観形成に欠かせないものとなっています。令和5年度に実施した村民アンケートにおいても「保全したい景観」の1位となっており、村の重要な資源として後世に残していくための取組を行っています。



出典：国土地理院／GIS（地理情報システム）を用いて加工（パシフィックコンサルタンツ株式会社調べ）

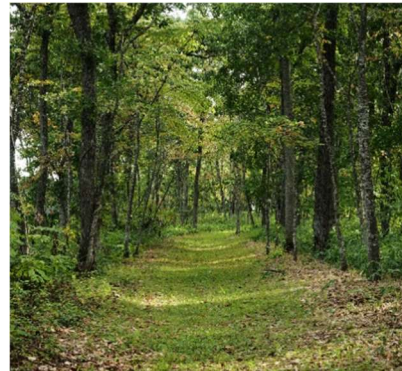
図 2-7 中札内村内の防風林（令和6年時点）

名称	特徴
共栄の防風林	開拓当時から残るカシワを主体とする防風保安林で、エゾヤマザクラやミヤマザクラ、イタヤカエデ等が自生しています。
ふれあいの森	市街地に隣接しており、カラマツ、アカエゾマツ、トドマツ等の植林木の他、コクワ（サルナシ）の木も確認できます。

表 2-3 ウォーキングコースとして整備されている防風林



共栄の防風林



ふれあいの森

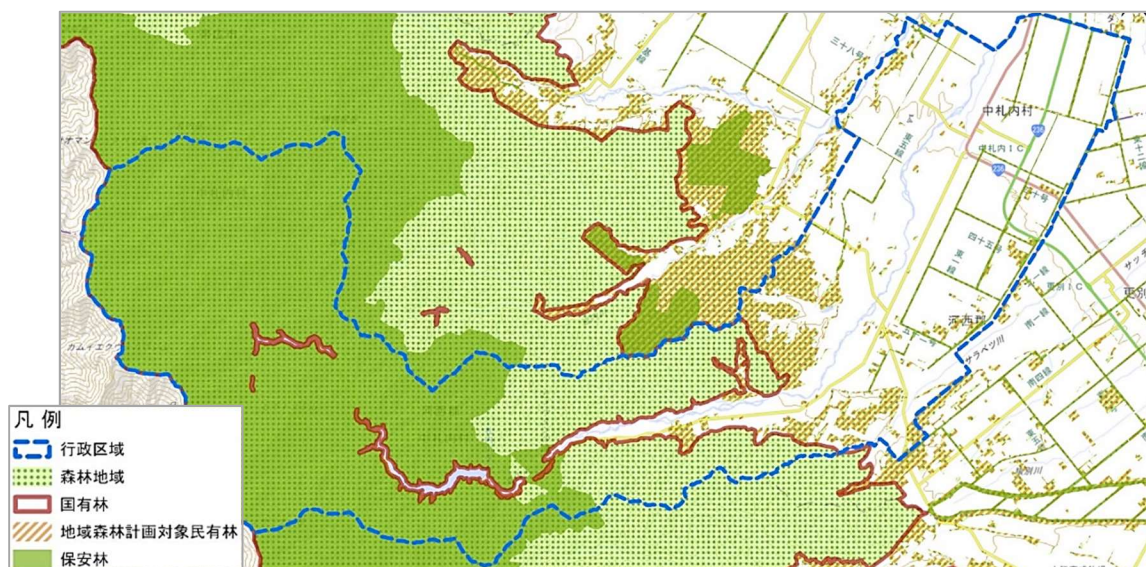
③ 森林

本村は森林に恵まれた地域であり、森林面積は 18,824ha と村の約 64%を占めています。森林は、村の西部に集中しておりほとんどが国有林です。国有林の多くは、日高山脈襟裳十勝国立公園や日高山脈森林生態系保護地域（保存地区及び保全利用地区）に指定されており、優れた自然の風景や貴重な生態系が確認できます。

森林地域面積	国有林	民有林			
		民有林計	道有林	市町村有林	私有林
18,824	16,717	2,107	-	1,259	848

出典：十勝地域森林計画書_北海道（計画の樹立年：令和 5 年）

表 2-4 中札内村の森林地域、国有林、民有林の面積（ha）



出典：Esri Japan ・国土数値情報

図 2-8 森林の区域図

④ 日高山脈襟裳十勝国立公園

日高山脈襟裳十勝国立公園は、その雄大な日高山脈の山並み、広尾町から襟裳岬にかけての海食崖の続く海岸線一帯、そして花の名山として知られるアポイ岳とその周辺の3つの地区で構成される自然公園です。環境省は、本公園が地殻変動を受けて形成された非火山性連峰を基盤に、山地を核として育まれた深く原始的な森林生態系及び我が国最大の原生流域面積を持つ河川を軸として、これらが海域まで一体的につながる景観を有する、我が国を代表する傑出した自然の風景地であることから、令和6年（2024年）夏に国立公園として新たに指定しました。

村では、南札内が特別保護地区、第1種特別地域、第2種特別地域、第3種特別地域に指定されています。



規制計画凡例	事業計画凡例
 特別保護地区	 園地
 第1種特別地域	 宿舎
 第2種特別地域	 避難小屋
 第3種特別地域	 野営場
 普通地域	 スキー場
	 博物展示施設
	 車道
	 歩道

出典：環境省

図 2-9 国立公園区域指定図

(7) 生活文化

① 人口

村の人口は、増減を繰り返しながらも緩やかな減少傾向にあり、直近の国勢調査年である令和2年（2020年）では3,884人となっています。社人研（国立社会保障・人口問題研究所）の推計によると、減少が続く予測となっています。

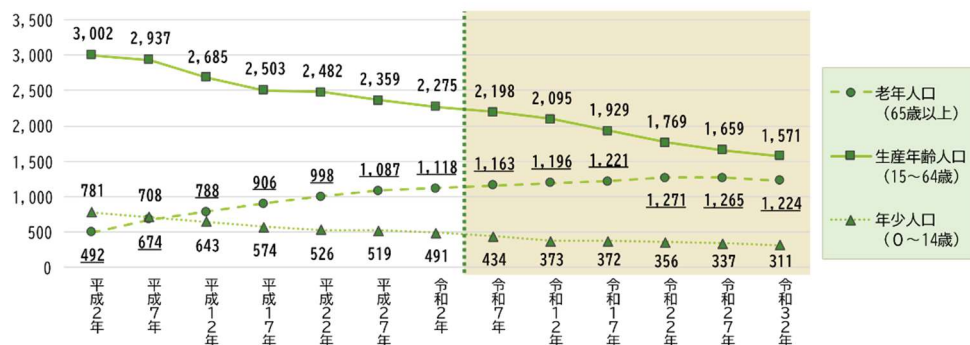
年齢階層としても少子高齢化が進行しています。社人研の推計によると、今後も少子高齢化の進行は続くと言われていますが、2045年にかけて老年人口も減少傾向となることが予測され、どの年代においても減少傾向となる本格的な人口減少時代の到来が近づいています。

村の転入者数と転出者数は、ともに増減を繰り返しながら推移しています。転入者数から転出者数を引いた社会増減は、マイナスとなっている年もありますが、令和元年から令和5年までプラスとなっており、転出者数を転入者数が上回っています。



出典：国勢調査（2025年以降は社人研推計（2023年））

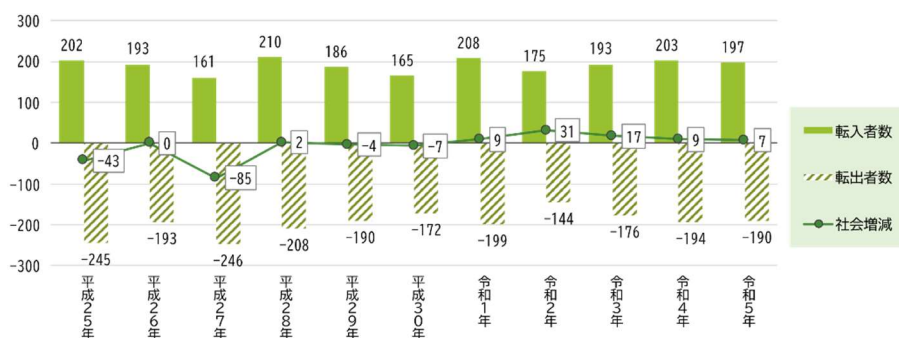
図 2-10 総人口の推移



出典：国勢調査（令和2年）（令和7年以降は社人研推計）

※老年人口のデータラベルについて下線

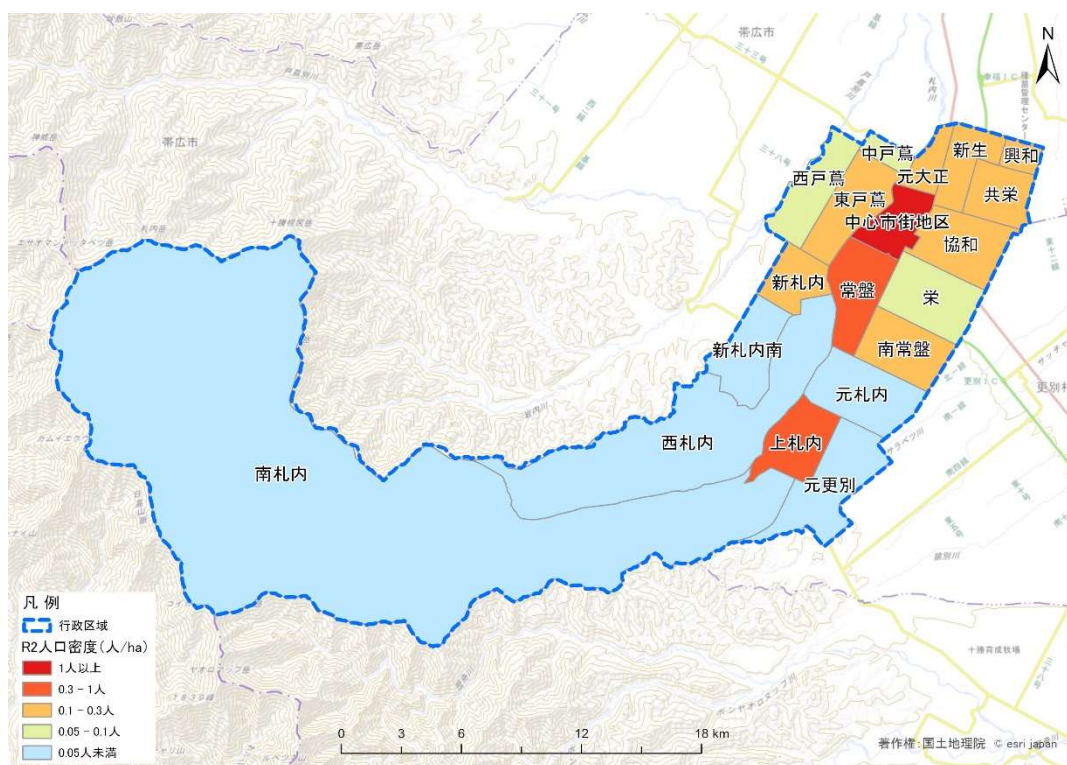
図 2-11 年齢3区分別人口の推移



出典：住民基本台帳人口移動報告

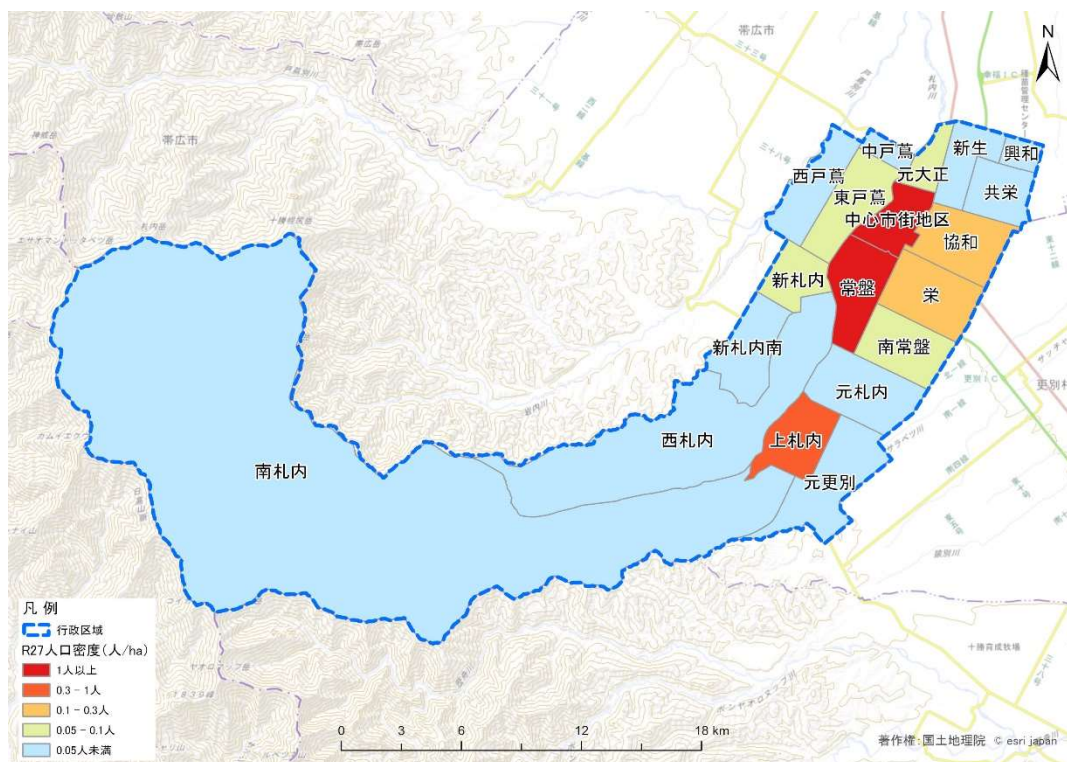
図 2-12 社会動態の推移（転入者数・転出者数）

地区別の人口密度は、令和2年の国勢調査では、中札内市街地が最も高く、次いで常盤、上札内が高くなっています。令和27年の推計値においても、中札内市街地が最も高く、次いで常盤、上札内が高いと予測されます。多くの地区が減少傾向にありますが、常盤と栄が増加傾向にあります。



出典：国勢調査

図 2-13 地区別の人口密度（令和2年）



出典：将来人口・世帯予測ツール V3（国土交通省国土技術政策総合研究所）

図 2-14 地区別の人口密度推計値（令和27年）

■開拓・入植の歴史

明治33年、北海道外から最初に中札内地域に足跡を残したのは、松浦武四郎です。松浦や陸軍参謀本部陸地測量部は札内岳（現カムイエクウチカウシ山）に一等三角点を埋設するために道なき道を進みました。

明治38年以降、移住者の手による中札内地域の開拓が行われ、帯広、落合間の鉄道開通を機会に、新しい土地を求めて道内外から中札内地域への入植が進みました。

開拓初期は札内川より西側での入植が進みましたが、大正時代以降は札内川の東側での入植が進み、現在の市街地は大正時代に形成されています。



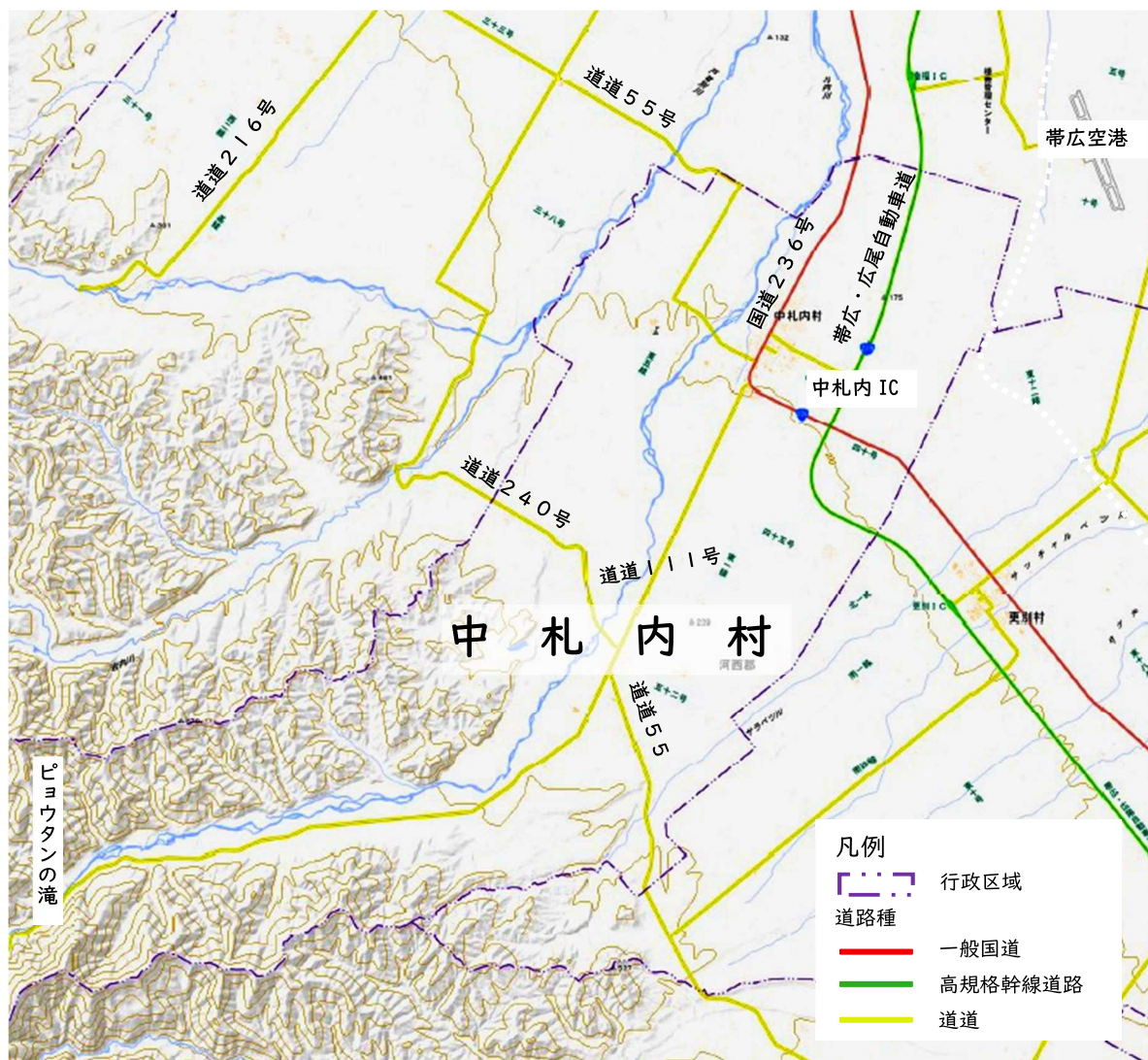
出典：新中札内村史より作成

図 2-15 地区別開拓の歴史

② 交通

とかち帯広空港から車で 10 分程の位置にあり、帯広・広尾自動車道等の広域交通基盤が整備された利便性の高い村です。

国道 236 号と帯広・広尾自動車道、道道 55 号、中札内インター線等は、村民の生活道路として、また、来村する方々の主要な経路として利用されており、村の景観を眺望する主要な視点場になっています。



出典：地理院地図をもとに中札内村作成

(https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/region/jouhou/pref_map_h/map/87725h_ezu.html)

図 2-16 主要道路図



国道 236 号



帯広・広尾自動車道

③ 歴史文化

■有形文化財

旧杉村農場サイロ

所在地：中札内村共栄東 3 線

指定年月日：昭和 59 年 10 月 25 日

旧杉村農場サイロは、故杉村吉之助氏が昭和 5 年に共栄地区において酪農を営んでいた頃の歴史的建造物です。杉村氏が経営していたコンクリート会社の特許製品であった L 型ブロックを使用した、構造的にも希少な歴史的遺産建造物で、高さ 10.3m、直径外 4.39m、内 3.91m、貯蔵量 91.33m³です。



■無形文化財

元更別大国神社石見神楽

指定年月日：昭和 37 年 6 月 29 日

島根県からの開拓団が中札内村元更別に入植した際に、団体の散逸を防ぎ、娯楽を与える意味から有志が郷土の神楽の上演を思い立ち、上演されたものです。

元更別大国神社石見神楽保存会が伝承しており、現在も日和（現在は島根県^{おおなんちょう} 邑南町）との交流や児童への神楽指導が行われています。



■歴史的文化施設

開拓記念館

所在地：中札内村大通南 7 丁目

富山から入植した農家が昭和 63 年まで実際に使用していた旧開拓農家住宅を移築・復元したものです。当時のこの農家の暮らしぶりから、歴史や生活文化を知ることができます。



豆資料館（ビーンズ邸）

所在地：中札内村大通南 7 丁目

旧馬鈴薯原原種農場の事務所であった建物を移築・修復したもので、豆を愛する架空の人物「ビーンズ氏」の家という設定で、家の中をめぐるながら、豆に親しみ、豆に関する様々な資料を見学することができます。



④ 観光

日高山脈襟裳十勝国立公園の入り口には、雄大な自然の中でアウトドアを満喫できる札内川園地（ピョウタンの滝）があり、雄大な自然を活かしたアクティビティを楽しむことができます。また、やまべ放流祭といったイベントも開催されます。

多くの人が立ち寄る道の駅なかさつないでは、花や緑があふれる空間が形成され、同じ敷地内の豆資料館や開拓記念館では、歴史や文化を知ることができます。

村内には民間事業者の美術館や野草園等が点在しています。開拓民であり画家でもある坂本直行の絵には十勝を代表する山野草が描かれており、その花々をテーマとした「六花の森」は、クロアチアの古民家を移築したギャラリーも点在していて中札内村を代表する観光スポットになっています。美術やガーデンといった民間事業者の戦略とまちづくりの方向性が融合することで、「アートのか村」としての魅力発信につながっています。

■中札内村の観光資源



札内川園地
(ピョウタンの滝)



グランピングリゾート
フェリエンドルフ



一本山展望タワーからの眺望



道の駅なかさつない



開拓記念館



豆資料館



六花の森



六花亭アートヴィレッジ
中札内美術村



花畑牧場



十勝野フロマージュ



岡本農園

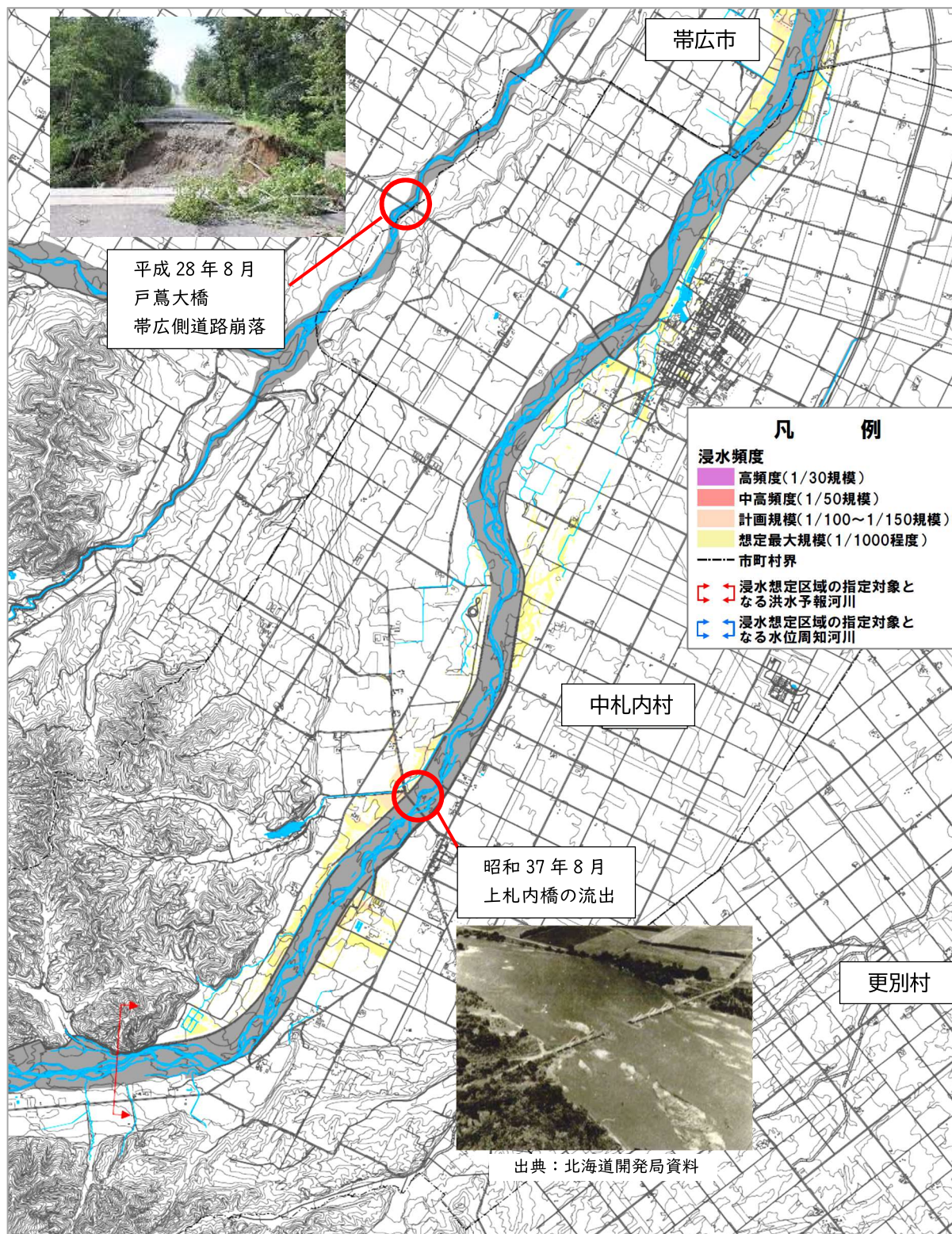


桜六花公園

⑤ 自然災害

札内川は村の農業・生活を支えている一方で、過去には多くの土砂災害をもたらしており、治水対策の苦労も重ねられてきました。

現在は、市街地及び周辺農地等において、浸水深 50 c m 以上の浸水リスクは限りなく低いものとなっています。



出典：国土交通省北海道開発局 帯広開発建設部

図 2-17 浸水深 50 センチメートル以上の頻度マップ（床上浸水が発生するおそれのある頻度）

2. 中札内村の開拓の歴史と景観形成の歩み

現在の中札内村に当たる地域では、明治 38 年（1905 年）から開拓が始まり、中札内村としての歴史は昭和 22 年（1947 年）から始まり、市町村合併がないまま今日に至ります。

開拓の歴史と景観形成の歩み

1900年代

明治 33 年～

- 明治38年 中札内の開拓始まる
- 大正元年 帯広-上札内間道路開通
- 大正5年 上札内-大樹間道路開通
- 昭和4年 日本国有鉄道（国鉄）広尾線帯広-中札内間開通（中札内駅開業）
- 昭和5年 中札内橋完成
- 昭和22年 大正村（現在の帯広市）から幸震村、売買村、幕別村（現在の幕別町）の一部が分村し、中札内村誕生
- 昭和23年 中札内村役場庁舎新設

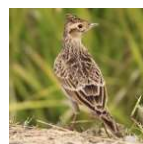


（出典）北海道開発局

1950年代

昭和 25 年～

- 昭和30年 中札内村立高等学校（後の北海道中札内高等学校）開校
- 昭和34年 村章制定
- 昭和39年 国道236号帯広-中札内間道路舗装完成
- 昭和43年 村民憲章、村歌、音頭制定
- 昭和52年 開村記念日（9月1日）制定
- 村花、村木、村鳥制定



ヒバリ



カシワ



スズラン

1980年代

昭和 55 年～

- 昭和56年 日高山脈襟裳国定公園指定
- 昭和58年 中札内高等養護学校開校
- 昭和60年 「有機農業の村」宣言
- 昭和62年 国鉄広尾線廃止
- 平成元年 旧駅前通り整備（鉄道記念公園）
- 平成4年 開拓記念館、坂本直行記念館オープン
- 平成5年 富山県東礪波郡福野町と姉妹都市提携
- 平成8年 アグリパークが「道の駅」指定、『北の大地ビエンナーレ』初開催
- 平成9年 開村50周年式典挙行、中札内文化創造センター完成
- 平成9年 札内川完成



中札内村北の大地ビエンナーレ
第一回大賞

2000年代

平成 12 年～

- 平成14年 埼玉県川越市と友好都市提携
- 平成16年 帯広市との合併を問う住民投票で自立を選択
- 平成17年 道の駅なかさつないリニューアル、豆資料館オープン
- 平成20年 北海道中札内高等学校閉校、帯広広尾自動車道中札内 IC 供用開始
- 平成21年 中札内交流の杜オープン

2010年代

平成 22 年～

- 平成24年 十勝幌尻岳（カチポロ）が国指定名勝ピリカノカに指定
- 平成25年 十勝管内19市町村が「バイオマス産業都市」全国第1号選定
- 平成26年 中札内公民館がリニューアルし上札内交流館に
- 平成28年 「日本で最も美しい村連合」加盟



2020年代

令和 2 年～

- 令和5年 まちなかキッチンスタジオ完成
- 令和5年 鉄道記念公園リニューアルオープン
- 令和6年 日高山脈襟裳十勝国立公園指定（2024年）

第2章 中札内村の景観特性と課題

1. 中札内村の景観特性

(1) 自然景観

村の自然景観は、日高山脈や札内川等に代表される豊かな自然で構成されています。

主な自然景観は村の西側に広がり、札内川園地から上流部は日高山脈襟裳十勝国立公園に指定され、原生の自然が保全されるとともに、登山等の自然体験に活用されています。

村民にとって最も身近な自然景観は村内のどこからでも眺望できる十勝幌尻岳等の日高山脈の山並みや、朝霧等の自然現象であり、日常生活を過ごす上で非常に大切な役割を果たしています。

村の中心を流れ、日本を代表する清流の一つである札内川は、急流河川のため流れが激しく、河道が移動しやすい特徴的な景観を形成しています。また、河畔にはケショウヤナギの群落等があり、多様な動植物が生息・生育している緑の景観軸になっています。

札内川沿いを遡るにつれて谷状地形となり、原生の樹林に包まれた豊かな自然の恵みが感じられる景観を体験できます。札内川園地は、ピョウタンの滝に隣接し、日高山脈山岳センターやキャンプ場が整備され、やまべ放流祭等のイベントが開催される等、多くの人を惹きつける自然体験ポイントになっています。更に上流の札内川ダムからは、下流側の札内川河畔と上流側のダム湖を展望することができます。この他にも札内川に沿いに点在する札内川一号砂防ダムや西札内防災ダム等の展望地からは札内川の自然な水辺景観が眺望できると共に、一本山展望タワー等の少し高い場所からは、スケールが大きく雄大な十勝らしい景観を眺めることができます。



日高山脈

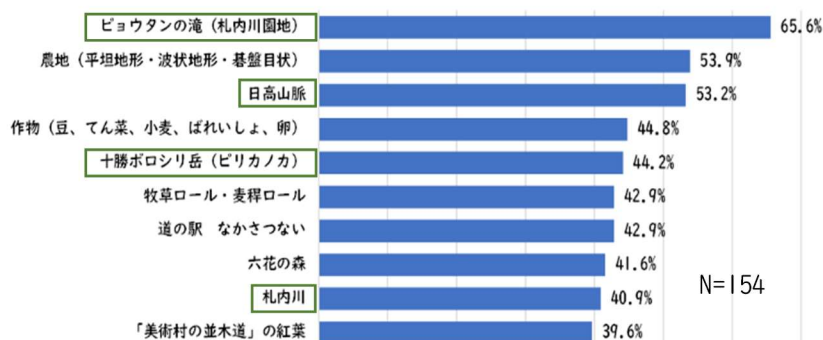


札内川園地



西札内防災ダム

村民アンケート調査では、中札内村らしい景観として「ピョウタンの滝（札内川園地）」や「日高山脈」、「札内川」等の自然景観が多く選ばれています。



出典：令和5年度村民アンケート

図 2-18 中札内らしい景観 上位 10 項目

(2) 農地景観

雄大な日高山脈や札内川を背景に、山裾から平野部に広がるパッチワーク状に整備された畑や、耕地を区切る防風林等は、誰もが「北海道の農村原風景」として思い浮かべるイメージそのものです。

中札内村では、牛乳、養豚、養鶏、いも、てん菜、豆類、小麦を重点作物とし、家畜のふん尿を畑に還元する循環型農業を進めてきました。この耕畜連携した体系によって、生きた土で安全・安心な農産物が生産されるほか、輪作体制が確立されています。パッチワーク状の畑で育つ様々な作物や牧草地によって、色彩豊かで美しい農地景観を形成しています。また、景観条例等に基づいて、使用していない家屋の管理や耕地防風林の維持等、農業を営む上で快適な環境が保全・整備されています。

明治時代から開拓された札内川の西側では、日高山脈の麓に広がる丘陵農地景観が形成されています。大正時代以降に開拓された札内川の東側は、平坦で広大な農地景観が広がっています。

農地景観を区切る防風林は、原野に自生するカシワ等からなる防風保安林や、カラマツやシラカバ等が列状に植えられた耕地防風林で構成され、十勝らしい農地景観を構成する重要な要素になっています。

開拓時代から長い時間をかけて育んできた農業の営みを発展させながら、美しい農村原風景の保全・整備に取り組んできた結果として現在の農地景観が形成され、見る人に感動を与える中札内村ならではの風景となっています。

また、農地には民間企業の美術館や野草園が点在しており、中札内村を代表する観光スポットとなっています。美術やガーデンといった企業の戦略とまちづくりの方向性が融合していることで、アートの村としての魅力発信に繋がっています。



新札内の丘陵地帯

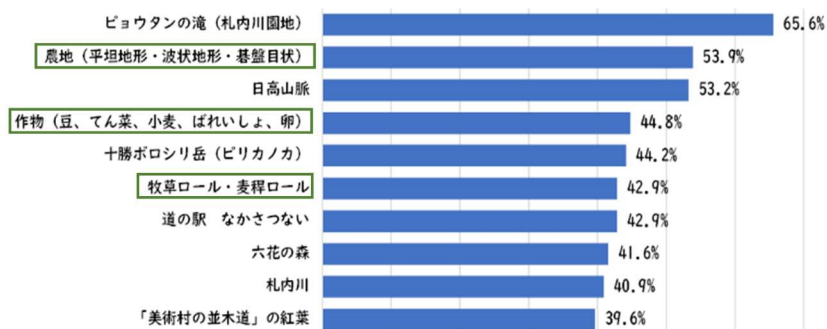


牧草地



パッチワーク状の畑と
耕地を区切る防風林

村民アンケート調査では、中札内らしい景観として「農地（平坦地系・波状地形・碁盤目状）」や「作物（豆、てん菜、小麦、ばれいしょ、卵）」等の農地景観も多く選ばれています。



出典：令和5年度村民アンケート

図2-19 中札内らしい景観 上位10項目

(3) 市街地景観

村内の主な市街地は国道 236 号沿いと北海道道 55 号清水大樹線沿いに立地しています。市街地では、景観を季節の花で彩ろうとする「花のまちづくり」の活動が住民の手によって育まれてきました。昭和 50 年代に「花いっぱい運動」が始まり、現在に至るまで住民による花のまちづくりが引き継がれています。毎年春ごろには住民の手によって花植えが行われ、国道沿いのメインストリートや公共施設が花で彩られます。

中札内市街地では鉄道記念公園や文化創造センター周辺等にまとまった緑の空間が形成され、公営住宅では公園や緑化スペースが整備されています。また、建物の整備に当たっては、中札内スタイル住宅建築基準を運用し、農地景観と調和した街並み形成を誘導しています。このようなまちづくりの取組を通して育まれてきた文化が、北の大地「中札内村」の街並みを彩り、他にはない魅力の一つとなっています。



メインストリートの植栽



市街地の店舗



まちなかキッチンスタジオ



中札内中学校

2. 景観をとりまく環境の変化

(1) 社会情勢の変化

平成 16 年(2004 年)の景観法の制定以降、全国各地で景観計画を策定し、良好な景観形成に向けた取組が進められるようになりました。中札内村においては、法制定前の平成 13 年に「豊かな自然を未来につなぐふるさと景観条例」を策定、平成 15 年に「景観形成指針」を策定する等、景観づくりの進捗や時代に対応した変更を加えつつ、良好な景観形成を進めてきました。

しかし、近年の社会情勢は、地球温暖化や人口減少等によって急激に変化しています。村においても、人口減少・少子高齢化、空家・空き地の増加、新たな住宅団地の造成、耕作地の集約による大規模化や GPS 等の IT 技術を用いた農業経営の進展、雑種地等での太陽光発電パネルの設置の増加等、環境が大きく変化しており、今後、より積極的に景観形成に取り組まなければ、豊かな自然や美しい景観が失われてしまうことが懸念されます。

(2) 新しい社会課題への対応

SDGs や脱炭素・循環型社会の実現等、新しい社会課題への対応が求められています。

本村では「中札内村地球温暖化対策実行計画」において温室効果ガス排出量の削減目標を設定し、エコカー導入や節電、リサイクルの推進等の各種取組を進めています。また、新エネルギー施設建設への助成や、住宅への省エネ設備導入に対する補助金の交付等、再生可能エネルギーを推進する取組も行っています。

農業分野においては、家畜のふん尿を畑地に還元する循環型農業の推進や、農業用プラスチックの適正な処理など、環境に配慮した農業を目指しています。

これらは、村の美しい自然や緑の景観を保全していく本計画と共通する取組であり、一体的に行うことで、効率的で効果的な景観づくり、環境づくりの推進が期待されます。

(単位：千 t-CO2/年)	2013 年度 (基準年度)	目標 削減率	2030 年度 (目標年度)	目標年推計値
産業	62.7			56.5
製造業	41.1			37.1
建設業・鉱業	0.3			0.3
農林水産業	21.3			19.2
業務その他部門	7.2			6.5
家庭	10.0			9.0
運輸	11.8			10.6
合計	92.0	-48%	47.8	83.0

(基準年度を 2013 年度、目標年度を 2030 年度としたケース)

出典：中札内村地球温暖化対策実行計画（第 4 期事務事業編・区域施策編）

表 2-5 中札内村における温室効果ガス排出量総量削減目標

3. 中札内村における景観の課題

(1) 景観まちづくりの担い手の高齢化や減少

村の人口は増減しながらもおおむね緩やかな減少傾向となっていることから、人口減少・少子高齢化に対応したまちづくりの必要性が高まっています。

並行して、これまで景観まちづくりを牽引してきた世代の高齢化や減少も進み、新たな世代への継承や担い手の育成が課題になっています。

(2) 農地景観の変化

環境と調和した農業の推進に向けて、地域複合システム循環農業の実践及び今後のあり方の検証、輪作体系の維持、生産性向上を図る取組等が求められています。

防風林の適正な管理も必要です。耕地防風林は減少を続けていますが、土壌侵食等の農業被害や交通障害を低減する等、強風から農業や生活環境を守り、十勝の代表的な景観として観光にも貢献している貴重な資源であることを踏まえ、防風保安林とともに、耕地防風林のあり方を、もう一度真剣に考え直す時期に来ていると言えます。

農地景観に影響を与える、太陽光発電施設等の脱炭素化に伴う事業による周辺環境への配慮も進めていく必要があります。

(3) 景観眺望場所での景観阻害要素の是正

空港やインターチェンジとつながる広域的な移動を支える幹線道路は、中札内村の景観まちづくりを伝える顔と言えますが、電柱・電線や柵等による景観眺望の阻害や、街路樹の強剪定による良好な緑景観の阻害等、景観上の課題になっている箇所があり、沿道の適正な景観形成と維持管理が求められています。

(4) 限定的な範囲に止まる街並み景観形成の取組

まちなか居住の推進に伴い、市街地やその周辺で新たな住宅団地の造成や、建て替え需要等が高まりつつあります。

村では建築物の景観誘導を進めるため、平成 19 年に「中札内スタイル住宅建築基準」を策定し、新たな住宅地の整備に当たって採用される等、中札内村らしい良好な景観形成に対して一定の成果が現れています。また、文化創造センター周辺や鉄道記念公園周辺、六花亭アートヴィレッジ 中札内美術村や六花の森等、村民に親しまれている美しい景観形成が図られている区画や場所もありますが、このような取組は村内に広く普及しているものではありません。

近年は空地、空家、空店舗の増加により、市街地の密度の低下が進展することによる景観阻害も懸念されており、既存ストックの活用や更新、新たな整備に当たって適切な景観形成の誘導や支援が必要とされています。

(5) 屋外広告物の運用管理の適正化

屋外広告物は、集合看板設置による個別の屋外広告物の集約化等に取り組み、一定の効果が見られます。しかし、街並みの景観と調和していないもの、日高山脈等の景観を阻害しているものも一部見受けられます。日高山脈の国立公園化を契機とする適正な観光誘導の推進等を図る上で、これまで以上に屋外広告物の適切な運用・管理が求められています。

第3部 景観形成の基本的な考え方

本村における景観形成の基本理念と目標を定めるとともに、
理念の実現に向けての基本方針を示します。

第1章 景観形成の基本理念

「人と大地が育み伝える 美しい村 なかさつない」

大地が織りなす雄大な日高山脈や広大な農地、豊かな自然といった景観を、私たちが美しい、中札内らしいと感じるのは、日々の生活での経験、思い出がそこに反映されているからです。この景観は、長い年月にわたる農業を中心とした生活の営みから作り出されたもので、そうした農村景観が、人間の生活にとって豊かで文化的な風土となり、美しい景観を形成しています。

また、美しい景観は、私たちのところにゆとりや安らぎをもたらし、ふるさとへの誇りや愛着を育みます。

景観と人の「ところ」は切り離せない関係にあると言えます。

景観は人のところによってつくられる

ところは景観によってつくられる



この考え方をもとに、村の財産と言える豊かな自然を次の世代に引き継ぐとともに、私たちの「ところ」も美しく豊かになるような景観まちづくりを、みなさんとともに進めていきたいと考えています。

第2章 景観形成の目標

本計画の目標は以下の2つです。

目標1 日本一美しい農村をつくる

- 日高山脈や札内川等の自然環境が生み出す景観の重要性に対する認識を深め、保全し、村のどこにいても雄大で美しい自然が感じられるようにします。
- 開拓時代から長い時間をかけて育んできた農業の営みを発展させながら、「北海道の農村原風景」とも言える、中札内らしい景観を整備・保全します。
- これまで育んできた「アート」や「花のまちづくり」の文化が香り、緑豊かで潤いの感じられる街並み景観にします。



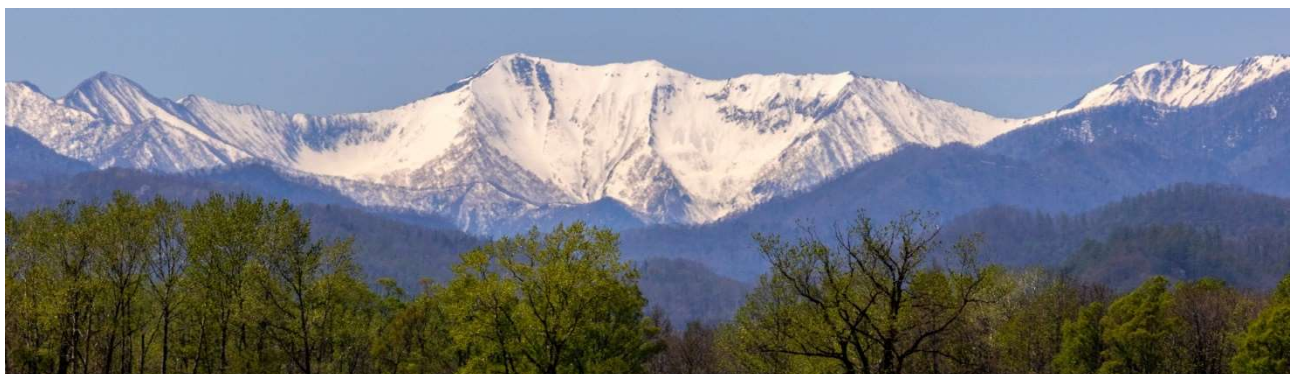
目標2 みんなで取り組む

- 美しい景観を守っていくには村に関わる全ての人の取組が不可欠です。「誰かがやってくれる」という考え方をせず、私たち一人ひとりの行動が景観を形作るものであることを忘れずに行動します。
- 村民、事業者、行政はみな景観まちづくりの主役です。それぞれが役割を認識して村の景観形成・保護に取り組みます。
- 村の様々な個人・団体が連携し、それぞれの考えを尊重しながら、互いに思いやりを持って景観まちづくりを推進していきます。



第3章 景観形成の基本方針

雄大な日高山脈、清流札内川、豊かな森や林、美しい農地、うるおいのある市街地等、村には魅力的な景観に恵まれています。それぞれの特性を活かした景観形成を進めていくことにより、村の魅力を更に高めていきます。



I. 自然景観

<日高山脈や札内川 恵まれた村の自然景観を守る>

- 中札内村の西部に連なる日高山脈や、村の中心を流れる札内川等の、自然環境が生み出す景観の重要性に対する認識を深めるとともに、自然景観の保全に努めます。
- 日高山脈襟裳十勝国立公園内の登山道や札内川園地等の公園施設の適正な整備と維持管理や、自然修復等の事業を行う公園管理者と連携しながら、原生の自然景観の素晴らしさを伝え、公園内の適正な利用を進めます。
- 一本山展望タワーの周辺の森等の自然公園と連続する原生的な自然景観についても、自然公園内と同じように景観の保全に努め、自然を体験するために必要な施設以外は整備しないように土地利用を誘導していきます。自然体験に必要な展望所や道路等の必要な施設整備に当たっては、自然景観を損なわないような配置と自然景観との調和に配慮します。
- 札内川及び周辺の河畔林が作り出す景観や、清流が育む動植物によってつくられる景観は、その保全と活用に努めます。
- 日高山脈の山並みは、中札内村の重要な景観資源になっていることから、村内のどこからでも美しい山並みを眺望できる現在の環境を維持していくとともに、良好な展望地においては眺望の支障となる物件の整序を進めていきます。
- 中札内村の生活や産業基盤として行う各種事業を行う際には、自然の生態系への影響を考慮し、豊かな自然景観の保護・保全に努めていきます。



日高山脈山岳センターの展示



日高山脈国立公園化 PR 事業



村内に生息する野生のエゾリス



景観ツアー

2. 農地景観

<長きにわたる営みによって育まれた 豊かな農地景観を守る>

- 中札内村の農地景観は、雄大な日高山脈を背景に村民の営みによって生まれた基盤上の防風林と畑、そして広がる牧草地によって形成され、村民の原風景となっています。開拓時代から長い時間をかけて育ててきた農業の営みを発展させながら、豊かな自然環境と調和した美しい農村原風景の保全・整備に取り組んでいます。
- 美しい農地景観は、持続的かつ健全な農業の営みと整理、整頓、清掃といった作法から生まれるものです。今後も農村として自立し、将来にわたって景観や環境、文化を守り続け、美しい地域を継承していくためにも、持続可能かつ健全な農業の推進と、景観の阻害要因の排除による美しく整然とした農地景観の質的向上を両輪で進めています。
- 農地の家屋や倉庫等の建築物や工作物、その周囲の外構や看板等は、周囲からの眺望に配慮し、農地景観と調和するような配置や色彩による景観形成を進めています。
- 不法投棄の防止や、雑草の除去等の適切な管理を推進することにより、農地景観の骨格を維持していきます。
- 開拓時より、強風や飛砂から村の農業や生活環境を守ってきた防風保安林は、適切な維持管理、更新によって機能と景観を維持していきます。また、「共栄の防風林」と「ふれあいの森」は、自然とふれあえるレクリエーション機能にも着目し、価値を高めています。
- 減少を続ける耕地防風林は、防風機能や、保全に対する村民の思い、観光にも貢献している側面、維持管理の負担等も踏まえ、中札内村の貴重な景観資源としての保全・更新のあり方を検討していきます。



牧草ロール



村道の管理



ウォーキングマップの制作



看板の乱立を防ぐ集合看板

3. 市街地景観

<花と緑とアートが彩る 魅力的なまちなか景観を守る>

- 中札内村には、中札内と上札内の2つの市街地があります。市街地景観は、住民、民間企業、行政によって育まれ、花と緑とアートが融合した文化が中札内村の街並みを彩ってきました。今後もこれまでの取組を継承、発展させ、村への愛着が深まるような市街地景観の形成を進めていきます。
- 市街地内の幹線道路である国道236号沿いと北海道道55号清水大樹線では、市街地景観形成の最も基本となる都市基盤施設として、みどりと潤い等を与えるオープンスペースとしての住環境を維持する機能や、秩序あるまちづくりや沿道の市街化を誘導する機能の向上を進めます。
- 国道敷地内や住居、民間企業敷地や行政の拠点施設で取り組まれてきた花のまちづくりを、市街地全体に広めていきます。
- 花や樹木は在来種を活用し、また、市街地の生活の中でもみどりとの結びつきを感じられるような中札内村独自の景観形成の取組を検討し、実行していきます。
- 道の駅なかさつないや文化創造センター、鉄道記念公園や公営住宅等における良好な緑景観の形成を、村内市街地に幅広く展開していきます。市街地内には公園緑地等のパブリックスペースが少ないことから、公共施設が牽引しつつ、住民、民間企業との連携・協創により推進していきます。
- 公共施設の建物内や民間企業敷地内で展開されてきた中札内村のアートの取組を、パブリックスペースに展開し、日常的にアートに触れ合える市街地景観形成を目指します。
- 建築物や工作物の新築や外観変更、模様替え等の整備や開発行為に対しては、配置や高さ、色彩等に関する景観形成に関する村独自の基準を拡充していくことにより、農地景観と調和した街並み形成を誘導していきます。
- 屋外広告物は、これまで実施してきた集約化に加え、大きさや色、意匠についても誘導し、周辺の街並み景観に調和した設置を推進していきます。
- このような景観まちづくりの取組を通して、中札内村独自の街並み景観の魅力づくりを推進していきます。



花植えの様子



ビューティフルデー（美化活動）